

EasyPal を HamSphere で運用する時のサウンドカード調整（一例） (OS : Windows XP)

Shu JO3KLS

私のあるパソコンのサウンドカードは次のような調整が必要でした。

1. Volume Control

まず、最初にサウンドカードの“Volume Control”を調整しました。

“Volume control”のレバーと“Wave”のレバーの位置は図1の通り丁度真中辺りが最適でした。そしてこの時“Microphone”はミュートにすることが大切です。

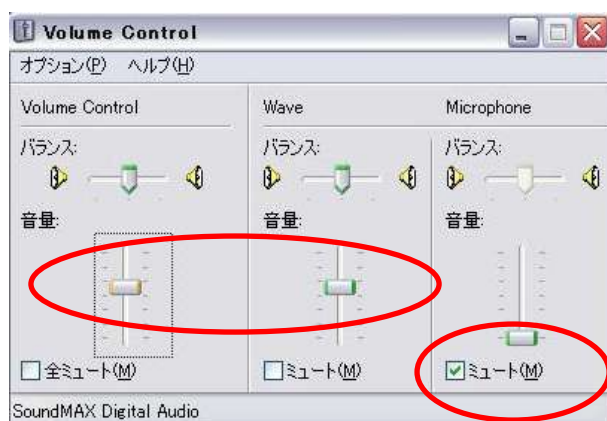


図 1

2. Recording Control

2-1.適正な調整

出力信号レベルを調整するもので EasyPal を HamSphere で運用する上で大変重要なポイントです。

私の場合“Wave Out Mix”レバーと“Microphone”レバーの位置は図2の通りでした。



図 2

正しく調整した後、EasyPal の“Action”で“Tune” をクリックしてチューニングトーンを発生させます。図 3 と図 4 の通り三本の白線が正しくグリーン
のマーカーの位置にあります。

図 3 は EasyPal 単独でチューニングトーンを発生したとき、図 4 は HamSphere を通してチューニングトーンを送信している時です。

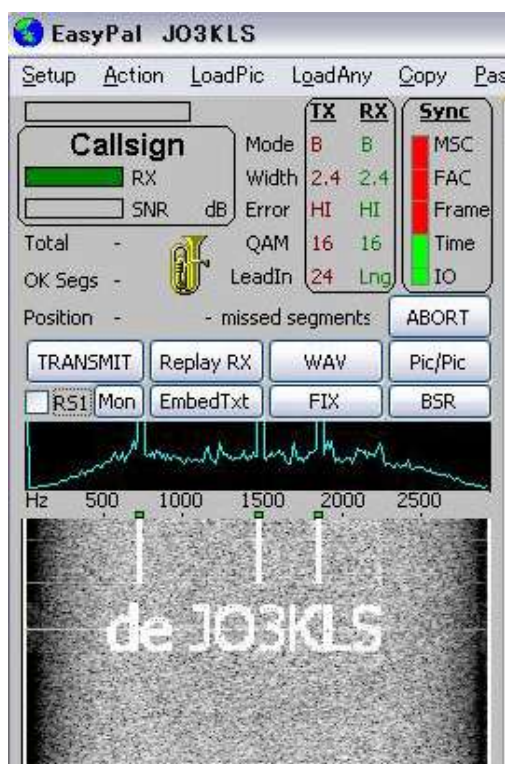


図 3

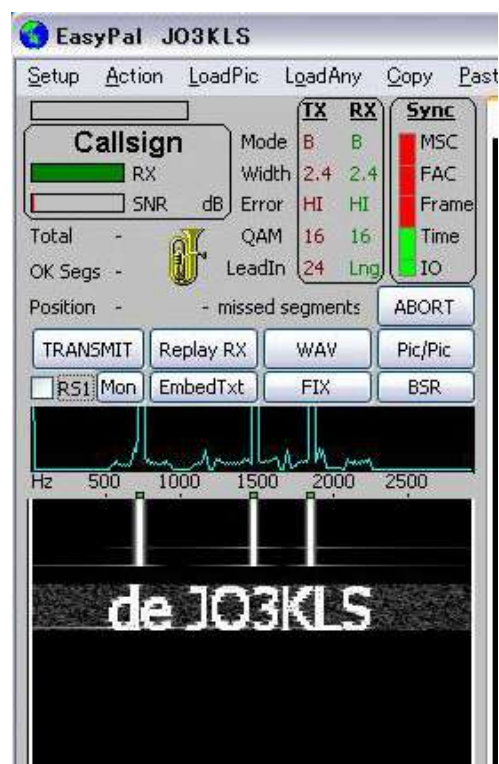


図 4

・受信中のウォーターホールの状態

図 5 と図 6 のウォーターホールの色を比べてください。

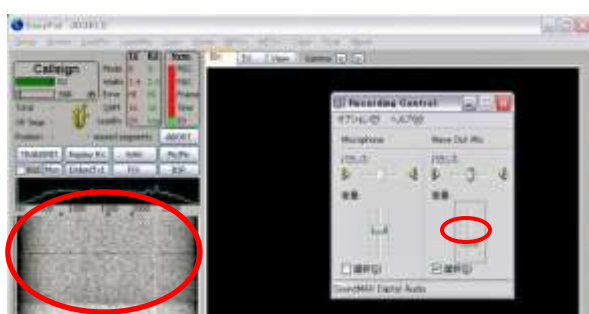


図 5(薄い、良好)

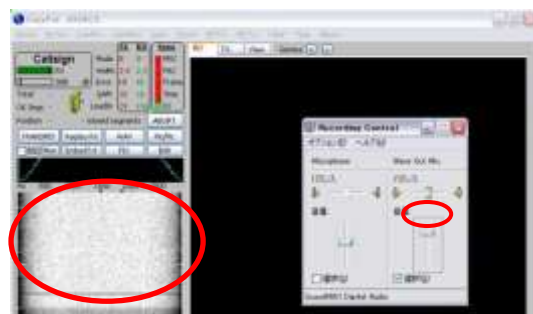


図 6(濃い、不良)

2-2.不適正な調整

調整が悪いと次のような現象が起こります。

- ① 図 6 のように受信待機中のウォーターホール色が濃くなっている。
- ② 図 7 のように EasyPal 単独でチューニングトーンを発生したときに、三本の白線とコールサインが不鮮明になる。
- ③ 図 8 のように HamSphere を通してチューニングトーンを送信したとき自局のウォーターホールの三本の白線が滲んで見え、高調波のような薄い線も見える。

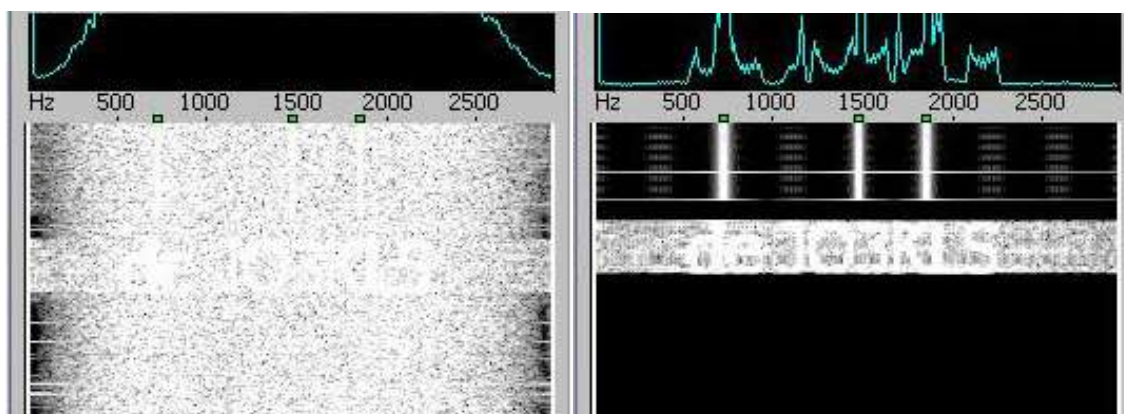


図 7

図 8

- ④ 図 9 のように受信側では高調波がはっきりと表れている。このような状態では到底画像は相手局に届かないばかりでなく、HamSphere でスプラッターをまき散らしているに違ない！！ 要注意

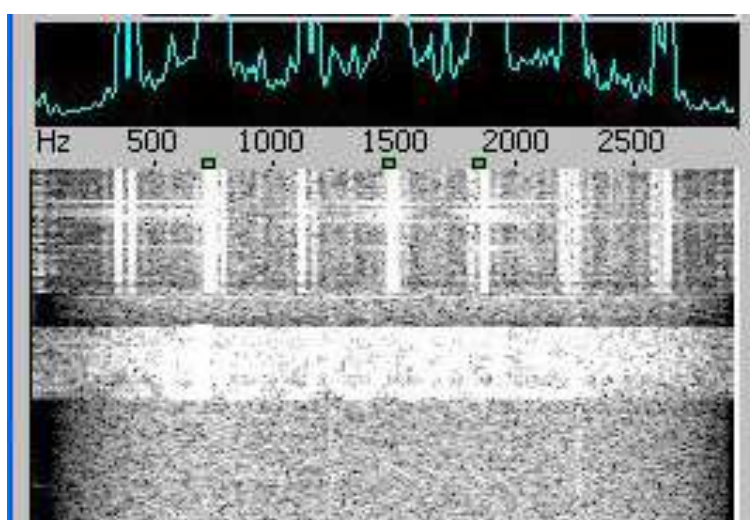


図 9

・ サウンドカードの“Recording control”を表示するには

EasyPal のスクリーンで“Setup”を選択して“RX Input(not Vista)”をクリックする。(図 10)

“RX Input(not Vista)”をクリックしたら“Recording control”(図 2)が表示される。

この“Recording control”は Q S O が終了するまで表示しておく。

その下の“TX Volume(not Vista)”をクリックしたら“Volume Control”(図 1)が表示される。これは調整終了後閉じても Q S O 差し支えない。

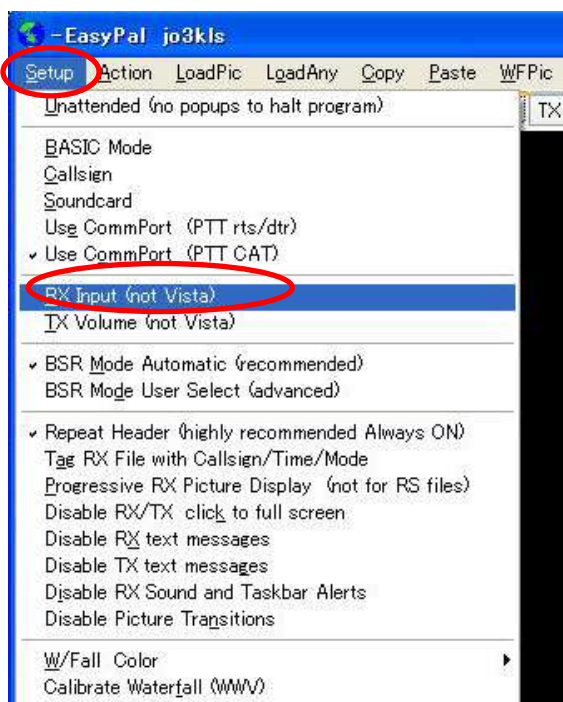


図 10

パソコンによって、“Recording control”は「録音コントロール」、「Volume Control」は「ボリュームコントロール」のように表示されているものがある。

別冊「EasyPal を HamSphere で運用する」と合わせてご覧ください。